

9. 四国（地域別調査機関：四国経済連合会）

（ - : 回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	-	-	-
	やや良く なっている	商店街（代表者）	それ以外	・アルバイトを募集しても確保することが難しく、失業率も低下しているなど、雇用は改善されている。
		百貨店（営業担当）	それ以外	・前年同月比で来客数、売上高共に上回っている。ブランド商品及び生活関連商品は好調に推移しているが、先月に引き続きファッション関連商品が苦戦している。
		スーパー（店長）	販売量の動き	・来客数が増加しているため、買上点数、販売量も増加している。客が価値のある物を求めているという傾向がうかがわれる。
		スーパー（財務担当）	来客数の動き	・最近、来客数は着実に増加しており、比較的客の出足の良かった既存店の4月と5月の来客数を前年比で見ると1.7ポイント良くなっている。
		コンビニ（経営者）	販売量の動き	・冬場よりも、少し売上が良くなっている。
		衣料品専門店（経営者）	単価の動き	・ゴールデンウィークは、昨年比へ順調に推移し、その後大きな落ち込みもなく、微増で推移している。特に、春物の軽衣料のアウトターとインナーの長袖物が順調で、単価が上昇し、売上が相当増加した。
		旅行代理店（従業員）	販売量の動き	・大型連休は、旅行に出かける人が多く、海外旅行もヨーロッパ・中国・ハワイなどへ例年より多く出かけている。国内旅行も沖縄・東京など順調である。個人レベルでも景気は良くなっているようであり、売上も今月は好調に推移し、6～7月にかけての団体旅行・家族旅行の相談も増加しているため、全体的に順調に推移している。
		観光名所（職員）	来客数の動き	・来客数が昨年比に比べて大幅に増加している。
		ゴルフ場（従業員）	来客数の動き	・来客数は、前年実績を上回り、予約状況も前年と比べると良い。
	変わらない	百貨店（営業担当）	単価の動き	・今年の母の日の贈り物は、母親と子供が買いに来て、母親が選んだものを子供が支払いをするという買い方が多く、必要な物以外は買わず良い物を贈るといった傾向である。そのため、単価がかなり上昇しており、そのような部分での景気回復は、徐々にではあるが見えて来ている。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・来客数が伸びる日と、それ以外の日ははっきり分かれており、全体では来客数は横ばいで推移している。
		スーパー（予算担当）	単価の動き	・夏物のTシャツ等、単価の低い物の動きは良くなってきたが、寝具・インテリア等大型商材の動きが鈍くなっている。新生活用品も含め、需要が前年比に比べて低下している。
		一般レストラン（経営者）	来客数の動き	・ランチは来客数が多いが、夕方になるとポツポツの状態、週末以外はあまり変化がない。
		観光型旅館（経営者）	来客数の動き	・宿泊人員や地元の宴会等の利用も増加していない。客の消費動向は少し良くなっているということであるが、観光の面では、四国、愛媛県全体的に見ても伸びておらず、全国的な競争の中で、四国はまだ苦戦している。
タクシー運転手		来客数の動き	・ゴールデンウィークは、市内のタクシーはずいぶん暇だったが、四国八十八か所参りに行っているドライバーに関しては順調だった。ゴールデンウィーク終了後は夜が暇であり、市内の営業は苦戦している。	
タクシー運転手	単価の動き	・ゴールデンウィーク中は、利用客も減少気味であった。今月に入り利用客数と、1回当たりの単価が低迷している。		
タクシー運転手	お客様の様子	・給料が上昇したという声をほとんど聞かない。		
その他住宅（住宅ローンセンター）	お客様の様子	・景気が良くなったからといって商品を購入しようというのではなく、必要に迫られたから購入したという話をよく耳にする。		

やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・ゴールデンウィークを含め、人通りや来店はぼちぼちであるが、1点当たりの単価、1人当たりの商品の単価が非常に低い。	
	一般小売店〔生花〕（経営者）	競争相手の様子	・同業者の話では、値段が安くないと買わないという傾向が続いており、5月は花の苗や植え替えシーズンのため売上が伸びる時期であるが、それほど売上は伸びていない。また、市場のせりの値段も安定安値であり、せりで買う人の購入意欲があまりない。	
	スーパー（店長）	競争相手の様子	・自店の2次商圏の競合店が5月27日に閉店になった。四国の中心に位置する山間部の町なので、少しずつ過疎化・高齢化の影響も進み、地域全体の需要が減ってきている。	
	衣料品専門店（経営者）	販売量の動き	・ミセス層の売上が前年並みを維持する反面、20～30才代のヤング・キャリア層の売上が前年比で14～15%程度落ち込んでおり、全体でも前年を1割程度下回っている。	
	乗用車販売店（従業員）	お客様の様子	・全体にデフレ傾向にあり、値引きにかかわらず、商品が売れない。極端な値引きは現在できないため、商談の段階で通常よりサービスすることが購買意欲を高めると思っていたが、特に今日は少なかった。ガソリン代の値上げやモデル末期の車が多いことが原因である。	
	乗用車販売店（営業担当）	販売量の動き	・今月の土・日曜日に開催した展示会では、車両での来店組数が前年比87%、成約台数は76%と、土・日曜日の客の動きとしては非常に悪くなっている。そのため、1か月の販売実績は前年比88%と前年を大きく割り込んでいる。	
	都市型ホテル（経営者）	来客数の動き	・全国的な学会が開催されたため表面上は客が多いが、それを除くと、完全に来客数が減少している。また、地元では大手の建設業者が破産したこともあり、良くない。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・今月は来客数、客単価共に低調で、同業者も同じような状況である。	
	設計事務所（職員）	競争相手の様子	・同業の決算・雇用の状況を見ると、経営規模の縮小傾向はますます顕著になってきており、給与のベースアップなし、役員手当カットは当たり前の状況である。全体の仕事量も更に減少してきている。	
住宅販売会社（従業員）	販売量の動き	・ゴールデンウィークの来客数は多かったが、それが受注にはつながらなかった。その結果、受注量は3か月前と比較すれば落ち込んでいる。		
悪くなっている	一般小売店〔酒〕（販売担当）	お客様の様子	・地方都市では、取引先の廃業や業務縮小傾向にいよいよ拍車が掛かってきている。ごく少数の繁盛店に利用客が集中するため、競合する他の酒販店からの売込みも激しくなっている。その結果、料飲店側の納入価格の再々値下げや、冷蔵庫、看板に代表される協賛要望はエスカレートする一方である。これらの原因が重なり、取引継続を断念した大口店が数店ある。	
	美容室（経営者）	来客数の動き	・競合店の増加が影響している。	
企業動向関連	良くなっている	-	-	
	やや良くなっている	パルプ・紙・紙加工品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・価格修正を取引先に依頼した後であるため、受注は一服している。
		電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・電子部品、電子素材が大変好調である。県外の手企業から話がある場合、話があれば決まるという状況であり、大手企業は非常に設備意欲が高い。
建設業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・3月期の決算では、工事量を確保するため赤字受注を余儀なくされていた。特に、公共工事で大幅な赤字が発生したため、減収減益の最悪の決算であったが、今期に入り民間の設備投資が回復しており、前期を上回る受注残高を確保している。		

	通信業（営業担当）	それ以外	・取引先の大型量販店のマネージャーへの「近隣に新規の大型競合店が開店すれば厳しい状況になるのではないか」という問いに対し、「ピンチはチャンスであり、近くに競争大型店舗が来ると集客力が増える」などの声が聞かれ、その他にも複数の人から個人消費に対する強気の発言が聞かれた。	
	通信業（支店長）	受注量や販売量の動き	・純増数が回復傾向にある。	
変わらない	繊維工業（経営者）	受注価格や販売価格の動き	・小売業態によって業況が分かれており、一概に良いとは言えない。特に家庭用品・インテリアに関しては、従来絶対量が多かった百貨店、量販店などが厳しく、新業態の小売業では好調に推移している。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	取引先の様子	・新長期排ガス規制は、旧対象は8月までの登録であれば可能であり、既に新長期排ガス規制で対応している客もある。動きが複雑であり、地域的には関東・関西の動きは鈍く、東海地区は依然として良い。客は、予算が決定したことで、少し動きが出てきている。	
	一般機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・今期も瀬戸内沿岸の大手製造業やエネルギー関連企業の好況は変わらず、クレーン・高所作業車の稼働状況も相変わらず順調である。	
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注できる可能性のある工事が増加している。	
	金融業（融資担当）	取引先の様子	・各取引先共、売上高は減少傾向で、粗利益率も低下している。	
	公認会計士	取引先の様子	・今月の各社の資産表・決算書を分析すると、前年と比較してなかなか改善されていない。前年比で、まだマイナスの企業が50%程度あるため、残念ながら、まだ景気は上向きになっていない。	
やや悪くなっている	木材木製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・着工数の動きが3～4か月前と比べると落ちている。土地の値上がり、材料の値上がり等で、今年は企業格差がずいぶん出てくる。	
	輸送業（役員）	取引先の様子	・昨年は比較的好調だった取引先（メーカー）の生産、販売量が今期に入り低調であり、生産調整等で取扱量が低下している。	
	輸送業（支店長）	競争相手の様子	・気温が高い日が続いたため野菜・果実の成熟が良く、出荷量が前年より増加しているが、一方で生活用品等の一般雑貨の荷動きは発荷・着荷共に大型連休明けから落ち込んでいる。	
悪くなっている	-	-	-	
雇用関連	悪くなっている	-	-	
	やや良くなっている	民間職業紹介機関（所長）	求人数の動き	・サ・ピス業・情報関連業・製造業等の中途採用求人が増加傾向にあり、人手不足感が見受けられる。また、業種を問わず新卒者の求人意欲も高い。
		学校〔大学〕（就職担当）	採用者数の動き	・企業側の採用姿勢は手堅いものがあり、採用者数はそれに伴いやや上向いている。
	変わらない	求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	・求人数（特にスキルや経験の高い人材採用）の場合4～7月は低迷期であるため、景気の良い造船業界を除いては厳しい。
	やや悪くなっている	人材派遣会社（支店長）	求職者数の動き	・登録者数、派遣登録に関しては、今月は過去最低になる見込みである。派遣で働くという選択肢よりも、直接採用の動きが根強い。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・マス媒体での広告よりも、地域をしぼって安価にやれるチラシなどの媒体を使用する広告主が定着しており、広告料の総額も減少している。
		職業安定所（職員）	採用者数の動き	・1月から就職者数の前年割れが続いている。
悪くなっている	-	-	-	